

2023年度 自己点検・自己評価 と 学校関係者評価 総括表

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない								
カテゴリー	評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的	1－1	教育理念・教育目的は、自養成所の上の特徴を示している。	3	3.0	労働者健康安全機構の「勤労者医療の充実」の理念に基づき、地域社会に貢献できる看護師の育成を目指すことをあげている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
	1－2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3		看護師養成所および専修学校として認可を受けており、看護の専門職業人教育機関としての法的整合性に問題はない。	3		
	2－1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3		教育理念・目標は、入学時に配布する学生便覧に明記している。教室には学年別到達目標を掲示し、学生が常に認識できるようにしている。年度の初めに学生に説明し、年度末に評価している。	3		
	2－2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	3		各学年の到達目標を明示している。	3		
	3－1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3		各実習要項はすべて理念・目的との関係性を学生に説明し、臨地実習を行うにあたり、単位取得が必要な科目を学生便覧に載せている。カリキュラムポリシーに説明してある。	3		
	3－2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	3			3		
	3－3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	3			3		
	4－1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	3		看護の対象を生活者として捉え、看護を「人間」「環境」「健康」「看護」「生活」の概念で押さえ、「学生観」「教育観」を明記している。	3		
	4－2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	3		指針をもとに、専任教員は単元を考察し、授業計画を立案している。	3		
	5－1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3		教育理念・教育目的は学校の玄関に掲示し、ディプロマポリシーを学生便覧に明示している。	3		
	5－2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3		ディプロマポリシーは、看護の質を保障するのに妥当なものである。	3		
Ⅱ 教育目標	1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3	3.0	教育目標と理念・目的は一貫している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
	2－1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	3		教育内容を網羅している。	3		
	2－2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3		ディプロマポリシーとして表現している。	3		
	3－1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	3		卒業時到達看護技術および看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標を関連付けている。	3		
	3－2	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。	3		教育目標は、各履修科目の科目目標を通して具体的にしている。	3		
	4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3		看護師の専門的知識・技術・態度の目標と、自己研鑽の目標が設定されている。	3		
	5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3		卒業後の継続教育を意識して教育目標を設定している。	3		

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅲ 教育課程経営	教育課程経営者の活動	1－1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	3	3.0	専任教員はシラバスを全員に提示し、教務長が確認している。教育課程は全員が持って共有している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	3		一貫した教育が実施できるよう教務会議で情報共有を行っている。	3		
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	1－1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	3.0	2022年度のカリキュラム改正時に教育課程、授業科目の設定理由を明らかにしている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3		教育目標をもとに、学年別到達目標を明確にしている。	3		
		1－3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3		教育目標と学年別到達目標を明確にして、学年ごとの学生の成長を評価している。	3		
	科目、単元構成	1－1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3	3.0	2022年度のカリキュラム改正でカリキュラムポリシーを明確にし、カリキュラムポリシーをもとに教育課程の構成とその考え方を整合性のあるものとした。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	3			3		
		1－3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	3			3		
		2－1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である	3		指定規則を遵守した科目構成になっている。	3		
		2－2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3		勤労者医療を担う看護師の育成を目指した科目構成になっている。	3		
	教育計画	1－1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3	3.0	学生便覧に学則と履修規定を明記し、教員及び学生に配布している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	3		授業科目は当該学年で履修することとなっている。履修できなかった場合は、可能な限り調整し当該学年の履修科目と並行し履修できるようにしている。	3		
		2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3		進度表を作成し、学修の質が高まるような科目配列をしている。	3		
	教育課程評価の体系	1－1	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	2.8	学生便覧に学則と履修規定の中で単位認定の基準・方法を明示している。	3	2.8	・自己評価について支持する。
		1－2	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3		学生便覧に学則と履修規定の中で単位認定の基準・方法を明示している。	3		
		2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3		単位制を取っており、単位互換が可能である。学則18条(既修得単位)に明記し、入学時に申請手続きを指示している。「既修得単位の認定に関する内規」に基づいている。	3		
		3－1	教育課程を評価する体系を整えている。	3		講義ごとに授業アンケートを実施し、その結果を次の講義に活かしている。また、年1回学生満足度調査(アンケート)を実施し、学校の教育・実習体制・学校施設の設備・学生生活などについて評価している。	3		
		3－2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2		アンケート調査による学生への不利益がないことを文章化し、組織の個人情報の取り扱いを遵守している。評価結果を規定する文章はないが、評価を教育目的以外で活用しないことを明文化している。教員の倫理規定は他校のものを参考にしており、今後作成予定である。	2		
	教員の教育・研究活動の充実	1－1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	2.5	教員個人への時間や時期の偏りを調整しながら、可能な限り専門性が発揮できるように時間割を組んでいる。	3	2.5	・自己評価について支持する。
		1－2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	2		時間外勤務が増加しており、十分とは言えない。	2		
		2－1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	2		年1回の学会等の参加に対し、時間的・予算的に保障するシステムを整えている。	2		
		2－2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	3		共通看護技術演習は教務会議で授業方法、評価方法を提示し、意見交換をしている。	3		
	学生の看護実践体験の保障	1－1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	3	3.0	労災病院とは年5回、臨地実習指導者を開催し、それ以外の実習施設は、実習前の打ち合わせと実習後の評価のまとめを報告しており、自校の教育に対し理解を待っている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3		どの施設も実習支援体制を整え実習を受け入れてもらった。	3		
		2－1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	3			3		
		2－2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3		実習ごとに実習要項および指導指針を作成し、臨地実習指導者と教員の関わりを明確に記述している。実習の打ち合わせやまとめの報告などの場で意見交換ができており、相互に役割を認識している。その都度、調整できる体制が取れている。	3		
		2－3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3			3		
		3－1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3		臨地実習ガイダンスに、「個人情報の保護」「看護技術の学習方法」として患者の権利を守る行動について明文化している。	3		
		3－2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3		実習ごとに受け持ち患者に対して「臨地実習に関する説明と同意書」をもって、患者の権利を保障できるようにしている。実習前のオリエンテーションで必ず指導している。	3		
		4－1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3		臨地実習ガイダンスに、看護・医療事故の内容、報告ルートを掲載している。ヒヤリハット報告を記載する習慣をつけるよう段階的に指導を行っており、速やかに報告できるようになってきた。報告させたデータを収集し、分析は教員が中心となり、教員間または臨床の指導者間で事例を共有し、実習環境、指導方法等の対策を講じている。	3		
		4－2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	3		実習前に、医療安全に関する演習を計画的に行っている。	3		

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅳ 授業・学習・評価過程	授業内容と教育課程との一貫性／看護学としての妥当性授業内容間の関連と発展	1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3	3.0	授業科目は、教育課程の考え方をもとに検討し、学生便覧に明示している。	3	3	・自己評価について支持する。
		2－1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3		科目目標および教育内容を学生便覧に表示している。教育課程を申請するにあたり、各領域ごと、単元ごとの授業内容のまとまりの考え方を明確にした。	3		
		2－2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	3		各看護学において、科目の考え方を明文化し、他の科目との関連性を考えた上で単元ごとの内容を具体化している。各専任教員は、単元考察をして、他科目との関連を考えシラバスを作成している。	3		
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	3		授業内容は、ガイドラインの看護師教育の基本的な考え方、留意点に基づいて抽出しており、看護学の教育内容として妥当性がある。	3		
		4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	3		重複や整合性を整理して、指導内容を具体的にしている。既習学習を基盤に、次の課題につなげるよう科目を整理している。	3		
	授業の展開過程	1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	3	3.0	授業内容に応じて、授業形態は選択している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	3		教員各自が授業案を作成しそれに基づいて授業を行っており、新人教員には指導技術のアドバイスをしている。	3		
		3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	3		教材の工夫や課題提示方法の工夫(e－ラーニングシステムの活用)により学習支援ができている。	3		
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	3		朝の連絡会や教員会議で情報共有し、演習の支援や学生指導の支援など協力体制をとっている。各教員が学生に課している課題は共有ボードに掲載し、教員間で確認しあい、学生に過度な負担がないようにしている。	3		
	目標達成の評価とフィードバック	1－1	評価計画を立案し、実施している。	3	3.0	授業科目は終講時に統一した授業評価を行っている。各教員は、学生の到達度評価(試験・技術チェックなど)を行っている。評価計画、評価視点を必ず学生に提示している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	3		教員各自で、授業評価結果を次年度の変更点に繋げている。変更点については、教務会議に提出し、検討をしている。	3		
		2－1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	3		授業評価に、学生に自己学習力の評価を取り入れている。Phollyによるタイムリーなレポートの提出や返却を行っている。筆記試験、技術試験、レポート等の日々の課題評価、実習の評価(中間・最終)にルーブリック評価を取り入れている。	3		
		2－2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	3			3		
		3－1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3		学則と履修規定の中で単位認定の基準・方法を明示している。	3		
		3－2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	3		学則と履修規定に沿って成績評価を行い、単位認定会議で承認を得ている。	3		
	学習への動機づけと支援	1－1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	3.0	シラバスは、一定の書式を決めている。院外講師には、提示を依頼している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3		シラバスに事前学習内容や課題を明記することで、学生が自主的に学習に取り組めるようにしている。	3		

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
Ⅴ 経営・管理過程	設置者の意思・指針	1－1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3	3.0	労働者健康安全機構の理念に基づき、勤労者医療の充実を図るための看護師教育について明示している。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3		「運営計画書」「学生便覧」で周知している。	3		
		1－3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	3		機構の内部業績評価及び自己点検・自己評価マニュアルに明示している。	3		
		1－4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	3		「運営計画書」「戦略マップ」「BSC」などで明示している。	3		
		1－5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	3		管理者の考え方と機構の考え方は一致している。	3		
		1－6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	3		職員アンケートの全労災看護専門学校における「施設の理念・基本方針の理解」の結果から理解状況を把握している。	3		
	組織体制	1－1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3	2.8	職員の組織図は、学則に記載している。また、学校業務指針で明確にしている。	3	2.8	・自己評価について支持する。
		1－2	意思決定システムが明確になっている。	3		意思決定システムは明確である。	3		
		1－3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3		運営に関する会議(運営会議、職員会議、教務会議)で、職員の意見を反映できている。	3		
		1－4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3		運営に関する会議(運営会議、職員会議、教務会議)で、決定事項の周知ができている。	3		
		2－1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3		任用の基準を明文化していないが、教職員採用には本校の教育理念、教育目的、教育目標に関する考えを聞き取り、一定の職務経験や専門性等を判断基準に持っている。	3		
		2－2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2		「運営計画書」に記載している。	2		
	財政基盤	1－1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3	3.0	運営計画書、BSC、資産計画書に記載されている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	3		学習・教育の質の維持・向上につながっている。	3		
		2－1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	3		運営会議で、予算報告、決算報告をし、情報共有している。	3		
		2－2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようにになっている。	3		教育の視点からの要望は、経営・管理過程に反映されている。	3		
	施設設備の整備	1－1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	3	2.8	運営計画書に記載されている。	3	2.8	・自己評価について支持する。
		1－2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	3		機器等整備計画を立て、計画的に整備している。	3		
		2－1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	3		書籍や視聴覚教材、機材のメンテナンス等を計画的に実施している。IT教材として電子黒板を活用している。	3		
		2－2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	3		医療・看護の進歩に伴い、最新の情報をとらえ対応している。臨床工学技師により、講義時間のみ人工呼吸器等のME機器を業者に持参してもらっている。Wi-Fiの整備や視聴覚室のプロジェクターのバージョンアップ等学習支援システムを継続的に進めている。	3		
		3－1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとつての福利厚生 の施設設備の整備を検討している。	2		地域との関連から福利厚生 の施設設備の検討はしていない。	2		
		3－2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	3		学校設備の点検や営繕工事、業者による清掃などを計画的に実施している。	3		
	学生生活の支援	1－1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	3.0	奨学金支援病院以外に、高等教育修学支援制度の対象校であるため、日本支援機構などの奨学金を受けることができる。教員による定期的な面談で、学習困難や生活上の問題に対しての情報収集・対応ができるようにしている。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングを受けられるようにしている。学習支援のための学生寮の整備をしている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3		事務、教員、スクールカウンセリングと窓口を明確にし、活用しやすいようにしている。食生活の支援として、昼食用弁当を配達してもらう支援をしている。	3		
		1－3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3		支援内容の成果を学生アンケート調査結果で確認し、必要時、対策を講じている。また、アンケート調査結果および講じた対策を開示して、学修の継続を助けることに繋げている。	3		
	養成所に関する情報提供	1－1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	3	3.0	入学式、戴帽式に参列した保護者に対して説明会を開催し、教育・学習活動に関する情報提供を行った。必要時、オンラインによる保護者会の開催ができるようにしている。	3	3.0	・自己評価について支持する。
		1－2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	3		学生・保護者・教員の三者面談や、電話での相談の受付などを行い、協力や支援を得ている。	3		
		2－1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。	3		学校ホームページはスタディサプリとリンクさせ、夏休みにオープンキャンパスおよび学校説明会を開催した。また、直接参加できない高校生にはオンラインによる学校説明会(夏休み、冬休み)を開催した。外部で開催された看護進路相談会に参加したり、入学生の実績がある高等学校を訪問したり、県外の高等学校には募集要項を送り、広報活動に努めた。	3		
		2－2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	3					
	養成所の運営計画と将来構想	1－1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	2.5	労働者健康安全機構の中長期計画のもとに、当校の中長期計画を示し、年間計画を立案している。	3	2.5	・自己評価について支持する。
		1－2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	2		自己点検・自己評価が不十分なため、評価の整合性は不十分である。	2		
	自己点検・自己評価体制	1－1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	2	1.6	全職員への周知が不足している。	2	1.6	・自己評価について支持する。
		1－2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2		学校評価委員においても明確になっていないため、学校評価委員会の活動を定期的に実施して理解を深める。教務会議及び職員会議におろす。	2		
		2－1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	1		年1回のみ、教務会議に提示しているだけで、体制を整えての運用になっていない。	1		
		2－2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	1		年1回の評価結果を出すだけに終わっているので、結果によってはフィードバックできるように学校評価委員会から提示する。	1		
		2－3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	2		自己点検・自己評価の内容が教育理念、教育目的、教育目標の維持との関連があることを周知して、教務会議等で教職員の意識につなげる。	2		

カテゴリー		評価項目		評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
Ⅵ 入学	1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	3	3.0	3.0	入学者選抜試験合否判定に関する基準が判定会議規程に明記されている。	3	3.0	・自己評価について支持する。	
	2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	3			推薦入試の学生の入学後の成績を分析し、選抜の公平性と妥当性を保ち、期待する学生を選抜するために、一般教養試験を取り入れている。また、2024年度入学者数の定員割れについては、早期入学試験の実施等の対策を検討中である。	3			
Ⅶ 卒業・就業・進学	1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3	2.8	2.8	卒業判定会議での科目履修の認定報告を行っている。3年生の学年別目標で評価している。	3	2.8	・自己評価について支持する。	
	2－1	卒業時の到達状況を分析している。	3			「卒業時まで」に習得すべき看護技術項目」の経歴状況を分析している。また、「看護師に求められる看護実践能力と卒業時の到達目標」の到達状況を自己評価してもらったものを分析している。	3			
	2－2	卒業生の就業・進学状況を分析している。	3			卒業生の全員が労災病院へ就職をしている。進学(助産師学校)は就職先病院との確認の上行っている。今年度は、進学していない。	3			
	2－3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	3			国家試験は、新卒者は100%の合格であり、全員、労災病院に就職した。、教育理念・目標との整合性があるといえる。	3			
	3－1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	2			就職先での評価を把握するシステムはなく、就職先から連絡があった場合に対応している。	2			
	3－2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	3			卒業生の就職先は労災病院であるため、調査が必要な場合に協力を得ることは可能である。	3			
	4－1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	3			就職先の労災病院に在籍調査(2016年3月卒業生～2022年3月卒業生)を2022年度末に実施した。2023年度も(2016年3月卒業生～2023年3月卒業生)の在籍調査を実施した。学生は、すべての実習を終えた3年生の時期に自己のストレス状態を知り、メンタルヘルスについて専門講師から研修を受け、卒業後も働き続けられるように活かしている。これらを踏まえ、年1回在籍調査を実施していく。また、卒業後の活動については、卒業証明書の発行件数の統計をみることで把握につながらないかを検討してみる。	3			
	4－2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	2			卒業生の認定看護師や他の分野で活躍している卒業生に講義を依頼している。臨床実習では卒業生が実習指導に力を注いでくれている。	2			
Ⅷ 地域社会／国際交流	地域社会	1－1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	3	2.7	2.7	高等学校訪問を行い、地域のニーズを把握している。新入生の卒業した新規の高等学校を訪問した。	3	2.7	・自己評価について支持する。
		1－2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にを行っている。	2			実習施設のイベントへのボランティア活動が、コロナ禍で中止となったまま参加できていない。実習施設の動向を見て、参加を促していく。学生はボランティア活動についての学習はしている。	2		
		2－1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3			実習施設からの評価を通して、把握している。	3		
		2－2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	3			学校ホームページを作成している。	3		
		3－1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2			SWOT分析による外部要因の評価が弱い。	2		
		3－2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	3			名古屋市や愛知県の在宅ケアや子育て等の情報を活用している。	3		
	国際交流	1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	2	1.3	1.3	災害看護の中に、卒業生による国際支援(JICAで活動)の内容を入れている。基礎科目の中に文化人類学を入れ、グローバルな視野で物事をとらえられるようにしている。なかなか、国際的な交流を行うのは難しい。	2	1.3	・自己評価について支持する。
		2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	1			情報処理室にパソコンを44台設置しており、インターネットを使用できる環境が整っている。英語の講義を設けている。翻訳機がある。	1		
		3	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1			帰国学生への入学制限はない。留学生の受け入れ体制はない。	1		
		4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	1			学校の特徴として、卒業時に留学や海外での仕事を支援する体制はない。卒業生に対して、必要な時は英文での卒業証明書の発行をしている。	1		
Ⅸ 研究	1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	2	1.7	1.7	研究活動のために財政的支援(研究費の支給)はあるが、時間的(研究時間の確保)、環境的(情報検索システム等)な保障はむずかしい。	2	1.7	・自己評価について支持する。	
	2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	1			研究を指導できる体制が整っていない。	1			
	3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	2			研究を相互に支援する素地はあるが、Ⅸ-1、2の活動保障ができていないことで、行動に至っていない。	2			
		全項目平均値		2.78		全項目平均値		2.78		